年賀状あれこれ

定光寺　乙川文英

令和七年十二月二十三日

（私が考える）年賀状の役割

一　年始の御挨拶

二　近況の報告

三　？

A

寒中御見舞申し上げます
早々にご丁寧なお年始状を頂きましてありがとうございました
皆様にはお健やかに新年を迎えられたご様子　何よりと存じます
昨年〇月〇日に母　〇〇〇〇は八十九歳にて永眠いたしました
ご通知が遅れましたことをお詫び申し上げますとともに生前のご厚誼に心よりお礼申し上げます
また父　〇〇は施設に入所いたしましたことを機に、年賀状でのご挨拶を失礼させていただきます
誠に勝手ではございますが今後ともよろしくお願い申し上げます
酷寒の折　何卒お身体を大切に穏やかに新春をお過ごしください

B

喪中につき新年のご挨拶を失礼させていただきます
夫〇〇〇〇が〇月〇日に九十四歳で永眠いたしました
生前に賜りました御厚情を深く感謝いたしますと共に
皆様には佳き年をお迎えくださいますよう
心よりお祈り申し上げます

C

喪中につき年末年始のご挨拶は欠礼いたします
本年中に賜りましたご厚情に深謝いたしますと共に
明年も変わらぬご指導とご交誼をお願い申し上げます
なお時節柄一層のご自愛の程お祈り申し上げます

D

私も還暦を迎える年となりました。
息子二人も春から社会人となり旅立ちます。
そこで、勝手ながら皆様への年始のご挨拶を
今年限りで失礼させていただこうと思っております。

E

今後も変わらぬお付き合いの程お願い申し上げます。



